

【婦人科非悪性疾患】に対する【腹腔鏡手術をうける】ため 当院に入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた臨 床研究に対するご協力をお願い

研究責任者	所属 <u>麻酔学教室</u> 職名 <u>教授</u> 氏名 <u>森崎 浩</u>
実務責任者	所属 <u>麻酔学教室</u> 職名 <u>助教</u> 氏名 <u>加藤純悟</u> 連絡先電話番号 <u>03-5363-3810</u>

このたび当院では、上記目的で入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

西暦 2014 年 1 月 1 日より 2016 年 12 月 31 日までの間に、【婦人科】にて【非悪性疾患】に対する【腹腔鏡手術をうける】ため【入院】し、【当該手術】を受けた方。ただし、緊急手術を受けた方、硬膜外麻酔を使用された方、下腹部に小切開を加えた方は除きます。

2 研究課題名

承認番号 20160413

研究課題名 婦人科腹腔鏡手術後に患者が鎮痛剤を要求する回数に影響を及ぼす因子の検討

3 研究実施機関

慶應義塾大学医学部【麻酔学教室】

4 本研究の意義、目的、方法

近年多くの婦人科手術が腹腔鏡下で行なわれるようになりました。一般的に腹腔鏡手術は開腹手術に比べ傷が小さいため術後の痛みも少ないと考えられています。術後ほとんど痛みを訴えない患者さんがいらっしゃる一方、患者さんのなかには比較的強い痛みを訴え、何度も痛み止めの薬を使用する必要がある方もいらっしゃいますが、術後の痛みの程度に影響を及ぼす因子については明らかになっていません。本研究の目的は、当院ですでに婦人科の腹腔鏡手術を受けられた患者さんに対

象として、どのような因子が術後の痛みに影響を及ぼすかを、診療録から得られる情報をもとに統計学的に解析し、明らかにすることです。

5 協力をお願いする内容

診療録の閲覧

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～研究実施許可日～ 2019 年 12 月 31 日 (予定)

7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報(住所、電話番号など)は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第 3 者にはどなたのものかわからないデータ(匿名化データ)として使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報(連結情報)は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、倫理委員会に承認された破棄時点で完全に抹消します。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人(ご本人より本研究に関する委任を受けた方など)より、診療情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

【加藤純悟・慶應義塾大学医学部麻酔学教室・連絡先 03-5363-3810】

以上